



診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

私たち家族は、毎年東大寺と春日大社に初詣に行く。4年間のアメリカ生活が終わり帰国したころ、日本語が少々不自由になった上の子が遠足から帰って来て、とても大きなブツダを見たど興奮しながら話した。最初は何を言っているのか分からなかったのだが、それが大仏様である事を確認するために、お正月に家族で奈良に出かけたのがきっかけである。

元日の朝、奈良町から猿沢池、興福寺、奈良公園を

〈22〉「初詣」

（しび）は初春の青空に輝いている。奈良の寺社は、おおらかで雄大だ。大陸の影響を受けた最初の統一国家の気概を感じたりする。一方、長い年月の間、守られてきたからであろうか、

幾重もの人垣の中をゆっくりに前を進みながらお参りするのも正月ならではである。お社（やしろ）の深い森では、木々のこずえの葉が、新春の空で風に揺れている。お参りが終わると、

奈良のお寺の仏様たちはひっそりして静かであるとも思う。初詣では寄らないが、新薬師寺も好きな場所である。おおらかで素朴な万葉集とともに、私の中では心が回帰して行くところである。

この明るい開放感の中で、毎年、神仏に祈りお願いをする。お願いの内容は、子どもたちの成長に伴って毎年変わっていくが、かわらない事の方が多かった。それでも次の年には、懲りずに詣でて、またお願いをする。

お正月には、新しい年の抱負をもたれる方も多くある。願い祈ることも前向きな行為であると思う。お参りしてまた始まるのである。

皆さまにとって本年も良い年となりますよう祈っております。